

Public Information OBIHIRO

広  
報

# おびひろ

# 4月号

令和5年  
(2023年)

April

No. 1187

発行：帯広市  
編集：政策推進部広報秘書室広報広聴課  
〒080・8670 帯広市西5条南7丁目1番地  
電話 (0155) 24・4111  
FAX (0155) 23・0151  
<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>

— 特集 —

## 多様な視点を生かすまちづくり

まちづくりには、多様な視点を持つことが大切です。  
今回は、高校生の視点に焦点を当てた取り組みを紹介します。

### ～高校生編～

問い合わせ 広報広聴課（市庁舎3階、☎65・4109）



## まっすぐ食と向き合い、見えるまち ～学校給食をはじめ、十勝・帯広の食を考える～

帯広南商業高校  
クッキング部

### 〇クッキング部の主な取り組み

帯広南商業高校クッキング部は、十勝の特色や食材について学び、レシピ開発や料理研究、食を通じた交流などを行っています。

昨年11月に行われた、全国の高校生による地元食材を使用した料理コンテスト「ご当地！絶品うまいもん甲子園」で、2015年以来2度目の全国優勝を果たしました。

また、民間企業と連携し、十勝産食材を活用したレシピ開発やオリジナルメニューの販売のほか、子ども食堂や福祉施設と交流を行うなど、食に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。



下地真央さん 松木天俊さん  
吉川綾乃さん

さまざまな活動でお世話になった地域への恩返しと思い取り組みました。「わやうめえ蝦夷にぎ<sup>2</sup>」を学校給食として提供するため、小学生でも食べやすい食材に変更したほか、生産者の声も生かしました。

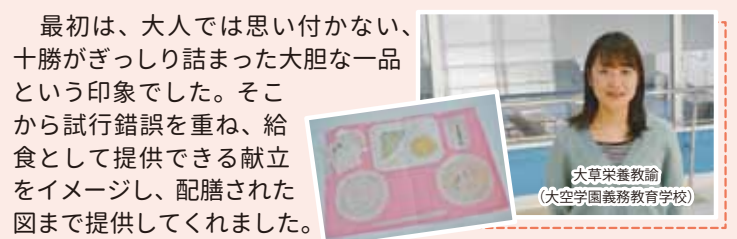
不安やプレッシャーもありましたが、成長期の体をつくる上で大切な学校給食に関わり、実際に給食を食べた弟妹から「おいしくて残さなかった」と言われ、誇りに思うことができました。

大草栄養教諭をはじめ、給食調理員の皆さんにおいしく作っていただき、感謝しています。ありがとうございました。

### 〇地域の子どもたちへ、給食メニューで提供

平成26年度から、学校給食の献立考案の取り組みを始め、市内全小中学校・義務教育学校の給食メニューとして実現されています。

今年度は、試作を重ねて全国優勝を果たした一品「わやうめえ蝦夷にぎ<sup>2</sup>」をイメージした、鮭昆布ごはん、献立の組み合わせとして大根のみそ汁と大豆の磯煮などを提供し、子どもたちから好評を得ています。



大草栄養教諭  
(大空学園義務教育学校)

最初は、大人では思い付かない、十勝がぎゅり詰まった大胆な一品という印象でした。そこから試行錯誤を重ね、給食として提供できる献立をイメージし、配膳された図まで提供してくれました。

高校生の熱意や頑張り、真摯さが栄養士や調理員にも伝わって、おいしい給食が出来上がり、一味違う給食を子どもたちも楽しんでくれたと思います。

# 授業で学び考え、見えるまち

～ 緑ヶ丘公園、稲田地区、広小路の活性化を考える～

帯広三条高校

## ○社会とつながる学び

地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支えることができる人材育成を目指している帯広三条高校。地域課題やまちづくりについて具体的に考え、生徒自らが探究課題を設定し、行政や地元企業と連携しながら、課題を整理・分析してまとめ、表現する授業を行っています。

## ○自分たちが暮らす「まち」を知る

今年度は、3クラスに分かれ、①緑ヶ丘公園、②稲田地区、③広小路商店街の活性化について、調査・研究を行い、その結果を校内で発表しました。



市の都市政策課職員がコーディネーターとなり、グループワークなどを通じて、帯広市の現状やまちづくりを考えるポイントを伝えました。また、11月には米沢市長も授業に参加し、「自分たちなら緑ヶ丘公園で何をしたいか、何があると思うのか、テーマやターゲットを明確にして、考えてみてほしい」と生徒たちへアドバイスを送りました。

## ○高校生ならではのアイデアが

12月に校内で行われた発表会では、緑ヶ丘公園内におけるグランピングや夏フェスの開催、稲田地区での集客イベント、広小路内のトイレ設置など、ユニークなアイデアが発表されました。



松島唯さん 鈴木沙弥さん

じっくり帯広のまちのことを考える初めての機会でした。これまでは、単に帯広にも流行の店や遊ぶ場所が欲しいと思っていましたが、自分たちでまちづくりを真剣に考えてみると、やりたい・欲しいだけでなく、費用や集客、将来性など、さまざまな要素

を検討しなければいけないことを知ることができました。

十勝・帯広は、緑ヶ丘公園をはじめ、緑や自然が豊かなことはもちろんのこと、堀口先生や原田さん、そして米沢市長とも話す中で、人が温かい地域だと改めて思いました。

これからも人と人がつながり、もっと良いまちになってほしいと思います。

高校生の視点がとても多彩で、行政だけでは思い付かないような面白いアイデアがたくさん出てきました。自分が学生の頃は、自分の住むまちについて考えたことはなかったですし、機会もありませんでした。



都市政策課 原田主任

生徒の皆さんは、高校生という貴重な時間の中で、一部分かもしれませんが、帯広について大切なことを学んだと思います。まちづくりは「人づくり」とも言われます。将来、成長した皆さんと、どこかで一緒にまちづくりに関わられることを楽しみにしています。

# 仲間と歩き語り合って、見えるまち

～ まちなか、にぎわい、多様性を考える～

キャンパス CAN-PASS

## ○CAN-PASSとは

2020年「マスク橋渡しプロジェクト」をきっかけに発足した十勝の学生によるボランティア団体で、さまざまな学生向けのプログラムを企画しています。

## ○高校生が企画「本気の社会科見学！」

CAN-PASS主催で、とかち財団や帯広市が協力し開催された「Tokachi EGGs～本気の社会科見学～一緒に青春しない？」にCAN-PASSのメンバーのほか、12人の高校生が参加しました。



このプログラムは4日間に渡って行われ、各グループには、とかち財団や市の経済企画課職員、大学生などがメンター（助言者）として加わり、グループごとに地域課題に目を向け、仲間と語り合い、解決策を考え最終日に発表するというもの。地元企業などの講話を聞いたり、実際にまちなかを歩いたりしながら、身近にある不便や負担などを洗い出し、それらの具体的な解決策について議論が行われ、まちなかの居場所となる飲食店、イルミネーションによるにぎわいづくりのほか、LGBTQ\*に対する理解促進など、さまざまな課題についての発表がありました。

## ○今しか経験できない青春を楽しもう

地域や社会の課題を語り合い、解決策を真剣に考えることを通して、貴重な青春時代を全力で楽しむ姿があり、まちなかににぎわいにつながることを期待できる1日となりました。



代表 松本優さん

Tokachi EGGsは、企画や資金集め、アポ取りなども基本的に高校生で取り組んでおり、十勝・帯広を知る機会になってほしい、参加者にはとにかく青春を楽しんでほしいという思いで企画に取り組みました。

このプログラムを通じて、発言や行動が前向き・積極的になった人、別なサークルを立ち上げた人など、4日間で皆さん大きく成長しました。そして、何よりも仲間と全力で楽しんだこの時間がエモく（心が揺さぶられる）、大切な夏の思い出になりました。

これからもCAN-PASSの活動が続き、今度は大人になった私たちが、イベントのお手伝いをして、青春の恩返しができたら嬉しいなと思っています。

初日は「まちの課題って何？ まちのイベントは誰がやるの？ お金もかかるの？」と話す学生もいました。しかし、企業の話を聞いたり、実際にまちを歩いたりする中で、まちのことを深く考えて真剣に話し合う様子が見え、日に日に変わっていく姿がたくましかったです。



経済企画課 浜田主任補

仕事を通じて知り合う十勝・帯広の人たちは、常に先を見据え、前向きに挑戦している人が多いです。まちづくりを支えるそのような人たちが増えると、まちの輝きも増すと信じています。このプログラムに参加した学生たちが、社会に出て活躍し、世の中を明るくしてくれることを期待しています。

\*LGBTQ L（レズビアン）、G（ゲイ）、B（バイセクシュアル）、T（トランスジェンダー）、Q（クイアやクエスチョニング）の頭文字をつなげた言葉で、性的少数者を表す総称の一つ。